ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　104　号
２０１２．11．15

目　次

2012年度　遺跡見学会実施報告……1
参加体験記：宇田一恵さん「遺跡見学会に参加して」……3
2012年度　遺跡調査報告会のお知らせ……4
月例研究会のお知らせ……4
北海道考古学会の歩み（４）……5
事務連絡……5
会費納入のお願い……5
会誌編集委員会からのお知らせ……6
その他……6

2012年度 遺跡見学会実施報告

今年度の遺跡見学会は、「厚真町の遺跡をめぐる」をテーマとして、８月26日（日）に実施しました。今回は40名のご参加をいただき、現在厚真町内で調査中の発掘現場や、約半世紀前に常滑焼の壷が出土した宇隆１遺跡を見学しました。参加者の方々は、ヲチャラセナイ遺跡の縄文時代前期末の大型住居跡、オニキシベ４遺跡の晩期初頭の遺物集中、オニキシベ１遺跡の落とし穴、朝日遺跡の晩期の土坑群などを前に、各担当者による解説に聞き入り、熱心に質問されていました。行程の最後となる宇隆１遺跡では、経塚の可能性と藤原氏政権との北方交易による結びつきについて、平泉町教育委員会の八重樫忠郎さんにより、アムール川流域由来と考えられるニタップナイ遺跡出土の鉄鏃について、参加者の一人である菊池俊彦会員により解説をしていただきました。参加者の方々は、実際の遺物を手に取り、東北アジアの物流の中継地点として繁栄した往時の厚真に思いを馳せていらっしゃいました。今年度は札幌市在住の宇田一恵さんに参加体験記をお願いしました。

〔見学コース〕　１．ヲチャラセナイ遺跡（厚真町教育委員会）
２．オニキシベ４遺跡（厚真町教育委員会）
３．オニキシベ６遺跡（厚真町教育委員会）
４．オニキシベ１遺跡（北海道埋蔵文化財センター）
５．朝日遺跡（北海道埋蔵文化財センター）
６．宇隆１遺跡（厚真町教育委員会）

休日にもかかわらず対応してくださった各担当の方々にお礼申し上げます。

ヲチャラセナイ遺跡

オニキシベ４遺跡

オニキシベ６遺跡

オニキシベ１遺跡

朝日遺跡

宇隆１遺跡（八重樫氏による解説）

宇隆１遺跡（菊池会員による解説）

参加体験記：「遺跡見学会に参加して」

宇田　一恵

今回、『厚真町の遺跡をめぐる』見学会を企画していただき、ありがとうございました。一昨年の道南ツアー以来、２回目の参加となるのですが、今年は日帰りだったので気楽？に申し込めました（笑）。

道外出身ということもあり、勉強不足で恥ずかしい話なのですが、厚真についての知識はほとんどありませんでした。でも以前、生のハスカップを食べてみたくて、列車＋バス＋送迎車で果樹園へ行ったことはありました。札幌から行くのは、ちょっと大変だったなという印象です。バスツアーは楽でいいですね。細い道ではワゴン車まで用意していただき、とてもありがたく思っています。

厚真の遺跡のお話を聞き、実際に発掘現場を訪れましたが、まさかこんなにたくさんの埋蔵文化財包蔵地が登録されている町だったとは知りませんでした。そのため、予想していた以上に充実した旅となりました（あ、何か上から発言で申し訳ありません）。長い年月にわたって人々が暮らしてきた厚真。昔から自然に恵まれ、交流も盛んな魅力ある土地だったのでしょう。通常、工事開始とともに発掘現場を見ることはできなくなってしまいます。今回もダム建設が行われると聞き、「厚真の景色」としてしっかりと目に焼き付けておかなければ、と強く思いました。

最初のヲチャラセナイ遺跡では、チャシ跡に現在の儀式で使用された祭壇がそのまま残されており、臨場感がありました。歯が集中して出土した縄文時代のシカ塚にも興味をそそられました。富良野盆地からやって来たという「キラキラ土器」はネーミングから女子にウケそう…。十勝溶結凝灰岩のサンプルを見せていただき、キラキラの正体は石英結晶と聞いて納得です。石器のリサイクル品などもあり、道具を大切に使っていたのだなあと感心しました。

オニキシベ６遺跡では、コブが特徴的な堂林式土器や土製耳飾りを手にとってじっくり見ることができました。また、石鏃やつまみ付きナイフは手作りの仕切りが付けられたケースに綺麗に収まっていて、見やすかったです。

オニキシベ４遺跡で出土した擦文土器は、以前北大で見たものとよく似ていて、当時の流行が感じられました。縄文時代晩期の台付土器、擦文文化期の鉄製品や錫が使われている耳飾りについては、調査員の方に詳しく説明していただき、とても勉強になりました。

さあ、待ちに待ったお昼の時間です。厚真名産のお米を使ったお弁当を配達していただけると聞き、楽しみにしていました。ツヤのあるご飯に和風のおかずで、ボリュームもあり、美味しくいただきました。完食！このとき使わせていただいた作業員休憩棟の設備にはびっくりしました。今まで見た現場の中で一番の充実ぶりです。

午後からはオニキシベ１遺跡へ移動しました。地層、住居跡、市松文様のようなグリッド、そして背景の山々…何もかもが美しいです。現場に積み上げられた排土の山でさえカラフルできれいでした。縄文時代の「小さすぎる？」住居ではどのように暮らしていたのでしょうか。あれこれと妄想しながらタイムスリップしてみたくなりました。出土品の玉、錘形石製品、尖底土器の底部などを見せていただき、これからどのようなものが見つかるのか期待も膨らみます。

朝日遺跡は調査開始直後ということで、今後の進捗が楽しみです。とても細長く高低差のある発掘現場で、土の捨て場に困っているという説明を聞きました。調査担当者の方の穏やかな関西弁の解説にも癒され、日高ヒスイ？も見せていただきました。こちらの遺跡では何十年も前に土偶が出土しているそうで、また発見されたら感動ものだなあと考えていました。町へ寄贈されたという注口土器も機会があったらぜひ見たいです。

そして最後は宇隆１遺跡。この北海道の厚真で常滑焼の遺物が見られるなんて思ってもみませんでした。愛知、岩手に住んでいたことがあるので、今回運良く聴くことができた先生方のお話は、とても興味深かったです。はるか大陸からやってきたという、高度な技術で作られた鉄鏃やガラス玉など貴重な資料にも触れることができ、本当に感謝しています。

天候にも恵まれ、あっというまの一日でした。偶然昔の同僚が厚真で勤務していて、現場で再会！など個人的に嬉しいハプニングもありました。今回の見学会を満喫できたのは、発掘現場で懇切丁寧に説明してくださった調査員の方々、企画運営をしてくださった北海道考古学会の担当者の方のおかげです。謹んで御礼申し上げます。厚真町の埋蔵文化財が満載の資料集もありがとうございました。大切に使わせていただきます。

2012年度 遺跡調査報告会のお知らせ

今年度行われました北海道内の遺跡調査についての報告会を以下の通り開催いたします。
開催にあたり、例年通り発表遺跡の資料と地域ごとの発掘調査の概況を掲載した資料集を刊行します。また、報告会終了後には懇親会を用意しておりますので、こちらもぜひご参加下さい。

○日　時：2012年12月22日（土）　10：00～17：00　（開場９：30）
○場　所：北海道大学学術交流会館
　　＊北海道大学正門から入ってすぐ左側の建物です。
　　＊公共の交通機関をご利用下さい。
○参加費：無料（資料集は1,000円で領布予定です。）
○報告遺跡（予定）　　【　】内は主な時代・時期
　せたな町　都遺跡　【縄文時代後期】
　厚真町　　朝日遺跡　【縄文時代晩期】
　根室市　　関江谷１竪穴群　【縄文時代前期】
　森町　　鷲ノ木遺跡　【縄文時代後期】
　浜頓別町　ブタウス遺跡　【縄文時代晩期】
　豊浦町　　礼文華遺跡　【続縄文時代】
　斜里町　　カモイベツ遺跡　【続縄文時代～オホーツク文化期】
　厚真町　　オニキシベ４遺跡　【擦文時代】
　伊達市　　ポンマ遺跡、カムイタプコプ下遺跡　【近世アイヌ文化期】
　　＊報告遺跡および順序は変更になる可能性があります。
○懇親会：17：30～（会場・会費は当日ご案内します。）
○その他
　当日書籍等の販売・チラシ等の配布を希望する方は事務局まで御一報下さい。

※本報告会は、道民カレッジ連携事業です。

月例研究会のお知らせ

北海道考古学会では、以下の予定で月例研究会をおこないます。予定の変更については随時学会ホームページ（http : //www.h7. dion.ne.jp/~hokkouko/）でお知らせいたします。

第５回研究会
○日　時：2012年11月24日（土）　15：00～
○会　場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
○発表者：柏木大延氏（札幌市埋蔵文化財センター）
○テーマ：古代東北・北海道における土製支脚の分布から考える集団の移動について
○発表者：荒山千恵氏（いしかり砂丘の風資料館）
○テーマ：漂着ココヤシと土製品

第６回研究会
○日　時：2013年１月26日（土）　15：00～
○会　場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
○発表者：坂口隆氏（北海道大学埋蔵文化財調査室）
○テーマ：周堤墓出現の背景を探る－ポリティカル・エコノミーの観点から－（仮題）
○発表者：永谷幸人氏（伊達市噴火湾文化研究所）
○テーマ：北海道の貝塚について（仮題）

第７回研究会
○日　時：未定
○会　場：未定
○テーマ：卒論・修論発表会

※事前申し込み・参加費不要
※問い合わせ：北海道考古学会事務局　hokkaidokoukogakkai@auone.jp

≪50周年企画≫

北海道考古学会の歩み（４）

1979（昭和54）年５月26日、27日に開催された北海道考古学会第17回総会での一齣（網走婦人会館にて）。米寿記念講演の演壇に立つ米村喜男衛氏と演者を紹介する大場利夫会長。続いて北構保男氏が「北辺考古学の曙―米村喜男衛先生をめぐって―」と題して記念講演をおこなう。

本総会においてそれまでの会長・副会長・幹事・監事制度が取り止められ、新たに委員会制度を導入することが可決された。新役員が選出され、その中から石附喜三男氏が初代委員長に就任。長年にわたって会長を務められてきた大場利夫氏は退任の挨拶で「30年前、考古学を本格的に始めるきっかけとなった網走の地で退任することの喜び」を述べられた。

（写真は福岡イト子氏提供。『北海道考古学会だより』第５号、参照。）

会費納入のお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　（学生）3,500円

会誌編集委員会からのお知らせ

会誌第49輯の原稿を募集しています

『北海道考古学』第49輯（2013年３月刊行）へ論文・報告等の積極的なご投稿をお待ちしています。原稿の締め切り日は2012年12月26日（水）（必着）ですが、編集の都合上11月22日（木）までに会誌編集委員会事務局宛に事前連絡をお願いいたします（詳細はだより第103号参照）。

会誌のアンケートのお願い

会誌編集委員会では、『北海道考古学』が来年度第50輯を迎えるにあたり、改めて会誌の体裁や内容、編集方針等について会員の皆さまのご意見を伺い、よりよい会誌づくりに努めたいと考えております。アンケート用紙を同封いたしましたので、回答を記入の上、平成24年12月15日（土）までに会誌編集委員会事務局までご返送ください。

会誌編集委員会事務局　〒066-0001 千歳市長都42番１
千歳市教育委員会埋蔵文化財センター（担当　高橋　理）
℡ 0123-24-4210
E-mail : osamu.takahashi@city.chitose.hokkaido.jp

その他

〔特別委員会について〕

今年度特別委員会について以下のように決定しましたのでご報告致します。

遺跡保護特別委員会　委員長　臼杵勲氏　　２号委員　青野友哉

北海道考古学会創立50周年記念行事実行特別委員会

委員長　野村崇氏　　副委員長　大島直行氏

１号委員　田口尚氏、石井淳氏、高瀬克範氏　　２号委員　高倉純、内山幸子

〔「会員通信」欄の設置について〕

『だより』では会員から寄せられましたちょっとした遺跡・遺物の資料紹介や考察などの原稿を掲載しておりますが、その他にも新たに「会員通信」欄を設けますので、考古学関連の企画展や催しの案内、感想や意見などの交換の場として活用してください。

北海道考古学会だより　第104号　2012年11月15日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒062-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX：(011)706-4000
E-mail　：hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　(011)668-1131